

第1回福岡市食育推進会議議事録（要旨）

- 1 **開催日時** 平成18年7月31日（月曜日） 16時～18時
- 2 **開催場所** 健康づくりセンター10階 講堂
- 3 **会議次第**

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 職務代理者の指名
- 5 議題
議題1 福岡市食育推進会議傍聴要領について
議題2 福岡市食育推進計画の策定について
（1）食育基本法及び食育推進基本計画について
（2）福岡市食育推進会議について
（3）福岡市の食の現状について
（4）福岡市の現在の取り組みについて
（5）福岡市の食育の課題及び今後の取り組みの視点について
議題3 今後のスケジュールについて
- 6 閉 会

- 4 **出席委員** 福岡市食育推進会議委員 25名
欠席委員 2名

- 5 **報道機関取材者及び傍聴者**
報道機関1社 傍聴者 無

6 議事概要

- 議題1 福岡市食育推進会議傍聴要領について
資料に基づいて説明し委員の了承を得た。
- 議題2 福岡市食育推進計画の策定について
（1）食育基本法及び食育推進基本計画について
資料に基づいて説明
（2）福岡市食育推進会議について
資料に基づいて説明
福岡市食育推進会議条例施行規則により食育推進会議にはかって、福岡市食育推進計画検討部会委員は事務局案（当日配布資料）で承認を得た。
（3）福岡市の食の現状について
資料に基づいて説明
（4）福岡市の現在の取り組みについて
資料に基づいて説明
（5）福岡市の食育の課題及び今後の取り組みの視点について
資料について各委員より意見の発表
- 議題3 今後のスケジュールについて
当日配布資料により説明

(意見)

ア) 家庭・地域における食生活

- | | |
|-----|---|
| 委員 | ・ 22%の子どもが朝食を摂らないという実情があるがどうしてか。 |
| 委員 | |
| | ・ 家族全体が寝る時間が遅くなっているようなところが原因にあるのではないかと思われる。PTAとしても原因を調査中である。 |
| | ・ また、朝食摂取の推進に取り組んでいるPTAには特別な研究費などを助成しながら調整をしている。各校で色々な取り組み事例があるが、福岡市全体として推進していきたいし、規則正しい生活にも取り組んでいきたい。 |
| 委員 | ・ 確かに夜子どもが寝るのが遅い。父親の帰りが非常に遅い。家庭だけでなく社会問題として取りあげて進めていく必要があるのではないか。 |
| 委員 | ・ 三歳児を対象にした健康づくり財団の調査では、10時以降の就寝が非常に多く半分以上になっている。また10時以降に寝ている子どもたちは、遅くなればなるほど朝食を食べていない率が高くなっている。 |
| | 生活のリズムが夜型になっていって朝が遅くなっているということがいえる。 |
| | 規則正しい生活と食事はかなり関係しているという結果である。 |
| 事務局 | ・ 若者の食生活と性行動の調査でも、朝食を食べない人の理由は朝食時間がない55.7%で最も高く、次いで食べるより寝ていたい40.8%、食欲がない20.6%と時間的な余裕がないという理由が一番多い。 |
| 委員 | ・ 「朝ご飯を食べよう」は何歳のリーフレットか？ |
| 事務局 | ・ リーフレットは3歳児健診等で活用している。 |
| 委員 | ・ これは、「朝ごはんを食べよう」なのか「朝ごはんを食べさせよう」なのか。 |
| | 「3歳の子どもに食べよう」ではなく、若い両親に「食べさせよう」の方がよいのでは・・・。最近食べさせない虐待のことがあったものだから。 |
| | 若い両親の家庭でのしつけが子どもにとって重要である。20歳前後の人も自らの朝食摂取の意識が非常に重要である。 |
| | 子どもには朝ごはんを食べようよりも食べさせようというのが重要だと理解したが、高齢者もある。高齢者はどんな食生活をするのか。子どもから高齢者までそれぞれ世代に問題があるような気がする。 |
| 委員 | ・ 我々の子どもの頃は、朝昼夕の時にたべないと、食べることができなかったので、必ずその時に腹一杯食べていた。今は飽食の時代でおなかがすいていないのが一番の原因ではないだろうか。従って親は、親も含めて夜8時以降は何も食べないというような家庭のしつけからやった方がいいのではないか。 |
| 委員 | ・ 小学校の5年生の調査によると、朝ごはんを食べない理由は、時間がたりない45.1%。食欲がない19.7%。朝ご飯ができていないというのが11.3%ある。 |
| | 時間が足りないというのは子ども自身の問題として、夜更かしをする、例えばテレビやゲームなど部屋に引き込んでやっているとか、塾の問題もある。寝る時間が遅くなっている。 |
| | ・ 保護者が子どもに朝ごはんを食べさせる意識もあまりない場合もある。保護者はパン等を与えて食べさせていると思っていても、子どもは食べた気になっていない場合もある。 |
| | ・ そういうことが学力に関係している。この度、学力実態調査と生活実態調査を行ったら、基本的な生活習慣、特に朝ごはんを食べてきているのか、早寝早起きしているかどうか、まさに成績に直結していた。 |

- 委員
 - ・そういう情報を発信して保護者に意識を持ってもらいたいと思っている。
 - ・朝ご飯はやはり食生活のかなめ、生活のリズムを作る上で大変大切なことである。朝食は学校保育所にも関係するが、家庭・地域になっていくと、一人暮らしの若者の問題、中高年の1人暮らし、1人ぐらしの高齢者の問題もある。
 - ・離乳食からメタボリックシンドロームの対策が必要と思うが、当面はお父さん世代が問題である。ターゲットをどの視点にあてるのか。
- 事務局
 - ・どういったところをターゲットに持ってくるかについては、この推進会議で意見をもらいたい。
- 委員
 - ・高校などは入っていないが、全ライフステージを網羅していく形なのか。ターゲットを絞るか否かの方針はいるのではないか。
- 委員
 - ・保育所の児童が朝食を時々食べないことがあるという理由は、90%が食欲がない、食事をする時間がない、寝起きが悪いとなっているが、資料で示された、特に20代30代40代の親となる世代の食生活が一番問題ではないか。ここをきちんとすることで子どもたちが食べていくのではと思う。ターゲットを20代30代の若者全体にして行くべきと考える。20代、30代が全国と比べてあまりにも悪い。
- 委員
 - ・先ほどの福岡市の食の現状の、特に男性を見ると半分しか食べていない。まずは自らが食べる必要がある。特に父親が食べていないということなので、若い父親が食事をするというような運動をすると、キャッチコピーをすとか・・・。
 - ・リーフレットは3歳児が朝ごはんを食べようだったが、むしろ、父親が食べようの方が効果があるような気がする。
- 委員
 - ・若い男性の実態について、大学での調査では、女子学生はかなりきちんと食べているが、男子学生は食べていない人が多かった。食育というと子どものための食育が優先しているように思える。親を巻き込んで食育を推進していくことは非常に大事だが、今10代～20代の若い世代に問題が多いと思われる。更に30代40代では肥満の問題も出てくる。こういうことを見落とさないように、福岡市には高等学校だけでなく、多くの大学があるのだから、そういう点を見落とさないことが重要ではないか。
 - ・また、私は久山町での食事調査を二十数年やっているが、40～50代の男性の欠食者の中には夜の飲酒者が多い傾向が見受けられる。日常の生産性を上げる観点やメタボリックシンドローム予防の観点から中高年男性にも的を絞って目を向けて欲しいという気持ちもある。
- 委員
 - ・専門家の方に聞きたいのだが、例えば朝食を摂っている子が肥満が少ないというようなデータはないのか。
- 委員
 - ・3度3度の食事をちゃんと食べている方が同じカロリーを取っていても太りにくいというデータはある。
- 委員
 - ・減量教室では、太った人の食事は不規則な（朝食を食べていない）ことがよく見られる。朝昼夕3回に分けて食べるようになると体重は減少していく。

イ) 学校・保育所等における食育

- 委員
 - ・学校の方では、食育については少しずつ栄養指導が入ってきている。市内の小学校の中には栄養職員が48名いる。3校に1人くらいいる。
 - ・栄養職員が自分の学校だけでなく他の担当の学校にも出かけて行って同じように指導を行っていく体制ができつつある。
 - ・栄養職員がいると、特別活動等で充実したで栄養指導が行える。栄養職員を今後も増やしていただきたい。また、学級の中では担任が学級を指導するが、栄養職員だ

けでは補助的な立場で1人では指導できないので、今後は栄養教諭が増えていけばそこら辺が又変わってくるのではないかと思う。

一番大事なことはおいしい給食をどう作るか、どう食べるかということになる。今、色々献立等も工夫されており世界の料理、季節・行事食、郷土料理も出てくる。課題としてあげれば食器が今はアルマイトで、熱かったりする。磁器のようなものがあればいいのだが。

また、新鮮なものを食べるということでは、郷土の野菜とか食べ物を取り入れることが課題になってくる。

委員 ・ 中学校は、今、夏休みの研修でいかに学力を上げるかということをやっているが、前頭前野を活性化させるため、朝ご飯を食べる時に家族の人と誰かと話しながら食べるということが前頭前野の活性化につながるという話を聞いてそういうことを学校の中でやっていこうかと思っている。中学校の場合は生徒指導の一環としてとして給食を楽しく食べる工夫も課題ではないかと思う。そのためにはどうしたらいいかというのも課題。

私の学校は、1学年だけだがテーブルクロスを班毎にしいて食べており、見に行くといい雰囲気になっている。副担任の先生も全部はいるので給食時間がおだやかな時間になっている。生徒指導の面からでも、学校生活の中でそういうことでもできるかなと思ったところである。

委員 ・ 幼稚園では、感謝して食べましょうとかみんな楽しく食べましょうとか、好き嫌いをせずに残さず食べましょうとかは昔からやっている。問題があるとすれば家庭・親だろうと思われる。家庭に根本原因があるので、幼稚園では、保護者に何かやるということの取り組みは今後考えられるが、子どもに対しては十分にやっけてきているのが現状である。

委員 ・ 学校栄養職員や家庭科の先生、保健の先生には、健康や食生活の実態を的確に把握をしていただき、70点80点の子どもよりも50点にならない子に目を向けていただきたい。私は食事バランスガイドの作成や普及啓発の過程で、食生活が大きく乱れている人たちに、少しでも関心を持ってもらうことから始めなければならないと感じている。このような人たちに、食生活が大切であるということを考えてもらえば、メタボリックシンドロームも10年後20年後には防げるのではないかと思う。

委員 ・ 医者立場から言うとメタボリックシンドロームが増えているということなので、食育は大事なことだと思っている。30%~50%の予備軍がいるということで、そこから医者立場としてはアドバイスしていくのかなと思っているところである。

委員 ・ 先ほど学校の取り組みについては説明したが、子どもたちの1日の栄養の大半は給食で補っており、家庭では、どうもバランスが偏っているのかなと感じられるところもあるので、学校からは保護者に向かっていろいろなことを発信している。給食だよりとかで保護者に啓発している部分もある。

・ 子ども自身に自分で食事を作れるように指導もしている。小学校5年から、簡単な作り方を教えたり、また、簡単なレシピを渡している場合もある。

委員 ・ 家庭や学校と並んで、地域の果たす役割も考えていくべきと思われる。今核家族化ということもあって、地域がなかなか家庭の中に介入しにくい。

家庭の中でも祖父母との関係が希薄になっており、食育についても伝承が難しい。地域力といってもコミュニティが壊れているので、なかなか難しい面があるが、そういった状況の中でも地域がどう支援していくのが考えていかなければいけないと思う。

・ 東区でも高齢者に対して、ふれあいサロンなどで会食会や配食サービスなどを行っ

- ている。
- ・食生活改善推進員が健康づくりボランティアとして地域でがんばっておられるので、この方たちの力を借りて、地域と家庭・地域と子ども・地域と高齢者の関係をしっかりとフォローしていかなければならないと思っている。食生活改善推進員の活動を行政としてバックアップし、地域における食育を推進していきたいと思う。
- 委員
- ・地域・家庭というけれど家庭は核家族になっている。またもっと核家族より小さい母子家庭、父子家庭が増えている。なかなか現実問題は厳しい。社会を反映しているような気がする。そうすると福岡はなぜこんなに朝食の摂取率が低いのか検討していく必要がある。段階別に多面から考えていく必要があると思われる。

ウ)生産者と消費者の交流や農林漁業の活性化

- 委員
- ・JAでは、生産者も安心、安全には十分気をつけており、消費者には安心・安全な野菜あるいは米をわたしていきたいと思っているので理解をいただければと思っている。
- 委員
- ・本年が農林業5カ年計画・水産業5カ年計画の見直し時期になっている。食育の基本計画と農林業・水産業計画との整合性をはかり、お互いの計画の中で整理し、補完するというような視点をもって取り組んでいただきたい。学校現場でも、包丁を使えない生徒もいるように見受けられる。そういう面も今後よろしく指導をお願いしたいと思っている。
- 委員
- ・資料を見ると福岡市の食の現状はたいへんだなあと思う。このことの意味合い、現状分析はどうか。国レベルと福岡市の状況を年代別に比較しているが、二十歳でも学生なのか、勤労者なのかわからない。基本的なものの分析をやらないと、こちらの取り組みの視点がありきで、その中でまとめようとすれば交差してまとまらないのではないか。
- 委員
- 他都市と比べて福岡市はこの部分が違うという状況があったら、その中で優先ラインをつけて、親の問題なのか、子どもが食べない状況なのか理由を把握しなければならない。そしたら子どもが夜更かしが多いからごはんを食べないのかなど理由が分かればターゲットを絞ることができる。ターゲットの絞り方がわからないまま家庭地域での取り組みや学校保育所での取り組みの中にはめてしまうのがいいのか疑問である。西日本新聞社やNHK・民放各社などマスコミは、データ関係は色々あるのではないかと思う。最初の出足の原因分析をまちがえば、結果としてこれだけのことをやっておいてこの結果かと逆におしかりを受けるのではないか。目的をはっきりさせて、福岡市がターゲットにしなければならないのは何かがわかれば福岡市の現状の話の仕方も変わってくる。全体を話すには材料不足という気がする。
- 委員
- ・おそらく国の食育基本法の分類を受けて県もそのように作っているため、そのように作ってあると言うことは理解できる。
 - だが、統計をみると、全国は国民健康・栄養調査になっており、これは厚労省が実施している1日だけの調査であり、市民アンケート調査とは直接には比較はできない。ご指摘のように問題点は何なのかということをはっきりさせるということは非常に重要。
 - ・課題が見えてくるかもしれない。ライフステージにより問題が異なる。特に福岡市は大学が多いし若者も多いし単身世帯も多い。福岡市が持つ社会的な側面が反映されているかもしれない。
- 委員
- ・福岡市でもこの食育推進計画を策定し、推進に取り組むのであれば大学でもいろいろな調査をされると思う。今回このようなこの取り組みを行うのであれば定点観測

- をしなければいけない。
- 幼児のとき、小学生のときを調査後、中学生で食べるようになったのか。調査しなければ、きちんと検証できない。定点観測をきちんと行い5年なら5年に1回きちんと検証していくべきことが大切だと思う。
- 委員 ・ 予算も伴うし、又やり方もどんなやり方でやっていくのか検討が必要だが、積極的な提案で、5年後どのように変わったか追跡することはおもしろい課題であると思う。
- これは、各自治体でもやっているのだから自治体間の競争になっている。
- どういう成果を出すか問われている気がする。できるだけいいものを作って、福岡はこうしていると全国に発信するという調査なり結果を出していったらよいと思っている。

エ) 食文化の継承の継承

- 委員 ・ 食文化の継承についてはどうか。
- 委員 ・ 農村・漁村の伝承をいろいろな地域で調べている。それぞれ各地域に食文化がある。PRが足りないという部分があるのでそういう点にも力を入れていきたい。
- 委員 ・ 農林水産省と厚生労働省が食事バランスガイドを策定したが、地域別の食事バランスガイドも作られている。栄養士や食進会をまきこんで、郷土料理を反映させた福岡市の食事バランスガイドを是非作っていただきたい。山笠やどんたくなどの地域色を入れて、国にも発信できるようにできないか。郷土料理の掘り起こしにおわらないで、観光も含めて何かアピールできればと思う。
- 委員 ・ 学校では、栄養士がたりない。栄養指導員・食育指導員を早く増やしていかなければいけないと思う。少なくとも各校にそういう先生が何名かいないと進まない。もう一つは学校は1週間5食しか食べない。朝と晩は家庭なので、親の教育をしなければいけないと思う。最終的には親の教育だと思う。
- ・ 学校での食器の問題は、私は陶器を使っていいと思う。陶器が割れてははじめものを大切にするようになる。家庭では包丁はステンレスを使用しているが、洋食系の人はヤスリでとぐ。そうしないと肉は切れない。これは文化だ。
- ・ また、農業体験で田植えをさせるが、その時にもう一つ教えてもらいたい。なぜ田んぼの水を張った後にうねを固めるのか。昔はあぜ道に、何のために彼岸花を植えたのか。なぜかという、彼岸花には根に毒があるためモグラがあぜ道に穴を開けないように植えたものだ。これも文化である。他にも野菜の四季や旬というものについても教えてほしい。
- ・ 漁業に関して言えば、地引き網で魚を捕る体験をさせている。地引き網の仕掛はどうなっているか、さかなはどう捕れているかを体験していく。そこまで教えて行くことが文化につながっていく。そういくことも教えなければ食育になっていかない。前者があるから後者がある。そういうことを教えてほしい。
- 委員 ・ 今の子どもの親の教育の問題だけではなく、その親を育てたが親世代にも問題があると思う。公民館としては今からは、子ども達に朝食を自分たちで作って食べよう講座を作っていきたい。また、食に関するいろいろなデータを提供していきたい。

オ) 食品の安全性・食生活に関する調査国際交流

- 委員 ・ 食中毒が発生する時期になっているが。
- 委員 ・ 食中毒はきちんと原因を追及して、再発を防止する必要がある。焼き肉屋で客が生焼けの肉を食べたり、生肉と焼けた肉に同じ箸を使ったことが原因と考えられる

- 食中毒も発生しており、消費者側も食中毒に対して十分認識する必要があると思われる。
- 委員
- ・時間がないというが時間がなければ早起きしてたべさせろというのが私の持論である。地域の話の戻るがいろんな人から情報を集める作業をすることが大切ではないか。そしてこうなったのはなぜか原因追及をしていくことが大事なのでは。それから子どもたちを中心にすすめていくのか、中高年の肥満の問題とかにつなげていくのかを考えていただきたい。
 - ・しかし子どもを育てている身としては、子どもをきちんとすることが先決ではないかと思う。大人は今まで何年も生きてきているのだから急に変わることはないと思う。いろいろなところから情報を収集していかに生かしていくのかがこの会議をやっている意義だと思う。

カ) 食育推進運動の展開について

- 委員
- ・今の意見も食育推進運動の展開のあり方に関するご提案あったと理解する。
- 委員
- ・食育の課題及び今後の取り組みの視点ということで6つの課題に従ってきたが、考えてみると子どもから老人まで各ライフステージ毎に問題があるのではないか。それにはいろいろな社会問題もはいつているので年齢世代毎、社会問題毎にマトリックスみたいなものを作って問題を整理をしていったらよい。単なる教育問題でもないし、社会を映している鏡でもあるし、それは福岡市が持っている特性かもしれない。純農村とも違うし、福岡市が持っている特性とこの問題を整理していった方がよいと思う。
- 委員
- ・具体的にある程度テーマを絞ってやっ行って行かないと進まないと思う。ぜひ食に関する歴史と文化を育んでほしい。